

公益社団法人

日本認知症グループホーム協会

公益社団法人 日本認知症グループホーム協会

配付資料

平成25年8月8日

公益社団法人 日本認知症グループホーム協会の概要 ①

■目的

公益社団法人日本認知症グループホーム協会(略称:日本GH協)は、認知症の人の尊厳の保持のもとに、住み慣れた地域で安心できる長寿社会の実現に向けて、グループホーム事業の健全な発展と国民の福祉の増進に寄与することを目的としております。

■沿革

- 平成10年5月 「全国痴呆性高齢者グループホーム連絡協議会」結成。
- 平成12年10月 NPO法人(特定非営利活動法人)取得。
「全国痴呆性高齢者グループホーム協会」となる。
- 平成17年10月 「全国認知症グループホーム協会」と改称。
- 平成21年3月 「一般社団法人日本認知症グループホーム協会
(日本GH協)」を設立
- 平成22年4月1日「公益社団法人日本認知症グループホーム協会」となる。

公益社団法人 日本認知症グループホーム協会の概要 ②

■事業内容

- グループホームにおけるケアサービスの質の確保、向上に関する調査研究及び指導
- 地域住民との協働による認知症ケアの相談及び普及啓発活動
- 認知症の予防から終末期ケアまでの幅広い領域での啓発活動
- グループホームに関する研修、全国大会、学会、講演会等、指導及び支援
- グループホームの全国ネットワークづくりと情報収集及びその提供
- 機関誌その他グループホームに関する刊行物の発行
- 行政その他関係機関との連携、連絡、調整に関する事業 他

■組織構成(平成25年6月30日現在)

会員数： 正会員 1,936法人 (2, 540事業所)

 準会員 65法人 (団体・個人)

 賛助会員 35法人 (団体・個人)

役員： 理事： 25名 監事： 2名

平成25年度主要事業について(研修・研究事業関連)

・全国大会事業

第四回日本認知症グループホーム大会

開催地・・・岩手県盛岡市 実施時期・・・平成25年10月4日(金)～5日(土)

会場・・・盛岡地域交流センター『マリオス』 参加予定人員・・・1,000人

・研修事業

認知症介護実践研修(実践者研修・実践リーダー研修)

認知症対応型サービス事業管理者研修

GHにおける防火安全対策研修、GHにおける自然災害対策研修、実践発表会「今後の認知症施策の方向性について」及び「認知症施策推進5か年計画」に関する研修会 等

・補助事業

厚生労働省老人保健健康増進等事業

- ① 地域包括ケアシステムにおける認知症グループホームの役割と多様化に関する調査研究
- ② 認知症グループホームを拠点とした認知症の人や家族支援のあり方に関する調査研究

平成24年度主要事業について(研修・研究事業関連)

・全国大会事業

第三回日本認知症グループホーム大会

開催地・・・大阪府大阪市 実施時期・・・平成24年10月5日(金)～6日(土)

会場・・・リーガロイヤルホテル大阪 参加人員・・・1,373人

・研修事業

認知症介護実践研修(実践者研修・実践リーダー研修)

認知症対応型サービス事業管理者研修

GHにおける防火安全対策研修、GHにおける自然災害対策研修、実践発表会 等

・委員会事業

教育研修委員会、災害対策特別委員会、

資格認定制度創設に関する特別委員会

・補助事業

厚生労働省老人保健健康増進等事業

① 認知症グループホームにおける利用者の重度化の実態に関する調査研究

② 認知症グループホームにおける災害時対策に関する研究

(財)JKA東日本大震災復興支援補助事業

認知症グループホームにおける利用者の重度化の実態に関する調査研究事業より① (平成24年度厚生労働省 老人保健健康増進等事業)

1. 事業実施目的

グループホーム利用者の重度化の進行に伴い、重度化の対応がGHの重要課題に
→ 利用者の重度化の実態、重度化への対応状況と、その影響等を明らかにする
ために実施

2. 事業結果の概要

- ・アンケート調査からは、多くの事業所において利用者の重度化(要介護度、日常生活自立度、生活面などの観察事項)が進んでいる傾向がみられた。
- ・重度化が進む利用者のニーズを踏まえ、多くの事業所が医療処置や看取り等にも対応できるよう人員体制の整備等に努めている傾向が明らかになった。
- ・事例調査からは、全国各地の事業所で、さまざまなタイプの重度な利用者に対し、その人に合ったケアに献身的に取り組まれていることが明らかになった。
- ・利用者の重度化の傾向としては、①加齢による心身の虚弱化、②認知症の中核及び周辺症状の進行、③医療ニーズの高まり等によって重度化が進行し、最終的にはターミナル期の対応が求められている。
- ・一方、これら重度化の諸要因は、並行して展開されることも多く、特に支援課題がどの側面に因っているのか等、対応のポイントが異なり、具体的かつ適切な対応方法は多様である。

3. 新たな検討の視点

(1) 多様化するGH

同一法人内のサービスや社会資源、医療機関等との連携状況といった諸要因によって、各GHの重度化への取り組みは異なっている。このことは多様な経営主体などの背景を要因に、GH運営が多様化しており、将来、機能分化する可能性も十分考えられるということが示唆されている。

(2) 増加する認知症高齢者の基幹的サービス拠点としてのGH

・「オレンジプラン」において25万人規模の対応が想定されているGHは、多様かつ適切なケアを内在させた地域の基幹的サービス拠点として、その存在と役割を明確にしていく必要がある。

・重度化に対応した適切かつきめ細かなケア、在宅・地域社会への復帰を図る、家族への支援の強化や、若年性認知症の人々への対応等整備すべき課題に積極・果敢に取り組むことが大切となってくる。

(3) 地域の認知症ケア・サービス拠点として質的向上の持続的取り組み

・地域包括ケアシステムにおける認知症ケアの基幹的サービス拠点としてGHを位置づける実践方法を構築し、これを理論的根拠に基づき継続して取り組むことが重要である。とりわけ、質的向上のために従業者の有資格化や専門的技能取得のためのプラクティカルな継続研修の確保と、GH現場に対するサポート体制の構築が不可欠である。